

市民による雑木林における活動に関する研究

○影沢裕之（ランラン・ファーム，十勝毎日新聞社千年の森），
栗田和弥，永嶋正信（東京農業大学農学部造園学科）

1. はじめに

雑木林は、近年の都市環境の拡大に伴い、パッチ上に残存するようになって注目されている対象といえる。しかし、離農のために旧来の利用方法が失われつつあり、代わって都市生活者が関わるようになってきた。本論でいう雑木林を「生活に必要な薪や炭、落ち葉などを得るために利用している、もしくは過去に利用していた、主に広葉樹からなる森林」と定義し、また生産性などから乖離した場合も含めた雑木林で行なう諸活動を「雑木林活動」として、その現状を明らかにしたい。

2. 研究の目的

市民組織による雑木林における活動内容の現状を明らかにし、そしてその活動に参加している人の価値感および効果を明確にして、さらに都市生活者にとっての余暇生活の楽しさ、魅力の発掘を目的とする。

3. 研究の手順および方法

対象地を都市部においても雑木林が比較的残存する神奈川県を対象地とした。

調査対象としては、①組織・団体の実態とその活動、そして、②雑木林活動に参加している個人の意見を聴くこととする。

まず、神奈川県内の雑木林を活動場所としている組織・団体の把握を、文献およびヒアリングによって行なう。次に、雑木林で活動する市民組織・団体の活動内容を、活動に参加することも含めた現地調査およびヒアリングにより行ない、同時に個人に対する調査対象の絞り込みを行なう。3番目には、雑木林における活動参加者に対する意識を、アンケート調査を行なうことで明らかにする。

アンケート調査では、「属性・育ったバックグラウンド(背景)の把握」「参加者の活動意識」の大きく2点について尋ねた。属性・背景の把握については、①年齢、②性別、③職業、④住居、⑤子ども時代に育った環境、⑥子どもの時に森で遊んだか、を調査した。また参加者の活動意識については、①雑木林活動への参加動機、②参加頻度、③初参加年、④参加理由、⑤今後の展開に期待すること、について調査した。

4. 結果および考察

4.1. 雑木林活動組織・団体について

神奈川県内では64の雑木林活動組織・団体が抽出された³⁾。

4.2. 活動内容について

64組織から直接ヒアリングを行なえる11組織を対象を絞り込んだ。そして、組織・団体の具体的活動内容をまとめた(表-1)。

多くの団体は雑木林の育成管理のみを行なっているわけではなく、雑木林をフィールドとして

様々なプログラムを展開している。雑木林の育成管理以外には、観察会（10組織）、勉強会（7）を開催し、雑木林に関する知識の普及や技術など向上に努めていることが伺える。また、植生調査など、地域に根差し、貴重といえるデータを蓄積している組織も多い。

4.3. 活動意識について

前述11組織の活動参加者を対象に、アンケート調査を行ない、105個人からの回答が得られ、有効回収率は61.4%であった。

参加者の属性・背景の特徴として、職業からみると、会社員（33.3%）、主婦（27.6%）の順であるが、農林水産業（0%）であった。雑木林活動組織は、雑木林を職業の場としていない人の、ボランティアとしての、あるいは余暇活動としての集まりであることが特質であるといえよう。

参加者の意識について、特筆すべき項目として、参加動機は、「会員に誘われて」が67.3%を占め、「パンフレット・チラシを見て」は、30.5%にとどまっている。情報伝達の未熟さゆえであると考えられる。また、自主的な参加というよりは、いわゆるロコミが多いことが明らかとなった。活動への初参加年は、1993年（21.9%）、96年（16.2%）からが多く、近年、参加者は増加の傾向にある。一方で継続が難しいという声もある。参加理由は、「自然に触れる」（74.3%）、次いで「身近な自然を守る」（63.8%）、であった（いずれも複数回答）。都市生活者にとっては、身近にふれあうことができる自然環境である雑木林が、重要な余暇、またはレクリエーション活動の拠点となりうる。また、回答としては多くはなかったものの「人とのコミュニケーション」（29.5%）、「地域に貢献する」（23.8%）など雑木林活動を通じた二次的な関わりもみられた。今後は、雑木林に限らず都市公園などにおいても、活動が自主的に行なえ、人的交流がはかれるようなフィールドが必要となることが考えられる。今後の展開では、「参加者の増加」（13意見）、「自然環境を守る」（12）、「楽しめる活動」（6）、を期待していることが明らかとなった（50意見中）。

参考文献および注釈

- 1) 倉本 宣・内城道興（1997）：雑木林をつくる。百水社。186pp.
- 2) 中川重年（1996）：再生の雑木林から。創森社。205pp.
- 3) 本論では雑木林活動組織の実数全てを把握することができなかった。今後の課題としたい。

表-1 神奈川県内における市民による雑木林活動の内容
(影沢裕之・栗田和弥, 1997)

活動内容		活動内容		活動内容	
雑木林の育成管理	11	副産物利用	6	ウッドチップの道作り	1
下草刈り	9	炭焼き	5	竹林の手入れ	5
蔓(つる)切り	9	木工	4	竹の間伐	5
除伐	8	テーブル作り	2	施肥	3
植林	3	ベンチ作り	2	竹細工	5
落ち葉掻き	3	楽器作り	2	たけのこ掘り	4
萌芽更新	4	草木染め	3	古代技術体験	1
薪割り	3	蔓(つる)細工	5	火熾(おこし)	1
鎌研ぎ	3	萱作り	4	植物から糸を紡ぐ	1
野草の保護	9	落ち葉堆肥作り	3	万葉の赤土染め	1
野草の調査	9	落ち葉しおり作り	1	どんぶりパン作り	1
野草の増殖	7	落ち葉ベッド作り	2	田圃・畑の手入れ	2
植生の復元整備	6	薪を使った料理	6	ボランティア登録	2
観察会	10	バウムクーヘン	3	ネットワーク参加	3
勉強会	7	ピザ	1	グループ作り支援	3
イベント主催	6	パン	5		
外部イベント参加	5	どんぶりおこわ	1		
ホテル鑑賞	4	タンドリーチキン	1		
清掃活動	5	バーベキュー	1		
研修視察旅行	3	汁物	4		
地域の歴史調査	3	きりたんぽ	1		
巣箱作り	1	ローストビーフ	1		
プラントネーミング	1	薪チップ薫製	2		

数値は、本調査から抽出された雑木林活動を行なう11組織のうち、活動を行なっている組織の合計